

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	臨床生理検査学2 (Clinical Physiology 2)		
ナンバリングコード	S20330	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 標準レベル 臨床検査学
単位数	1	配当学年 / 開講期	1年 / 後期
必修・選択区分	コース必修: 臨床検査学コース 選択: 診療放射線学コース、臨床医工学コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S009051	クラス名	-
担当教員名	中川 幹子、佐野 成雄		
履修上の注意、履修条件	臨床検査学コースの学生は必ず履修し、全ての授業に出席すること。 原則として指定した教科書に準じて授業を行うが、補足のプリントを配布する。 難解な内容のため、必ず予習しておくこと(教科書の指定ページを読んでおく)。 授業の3分の2以上に出席していない者には、期末試験の受験資格を与えない。 課題(レポート、小テストなど)は指示された方法で期限内に提出すること。期限を過ぎたら受理しない。		
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 第2版(医歯薬出版株式会社、2023)		
参考文献及び指定図書	脳波・誘発電位検査ポケットマニュアル(医歯薬出版、2021) 神経伝導検査ポケットマニュアル 第2版(医歯薬出版、2017) 臨床検査技師国家試験問題集(医歯薬出版)		
関連科目			

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】				
【ディプロマ・ポリシー2】	・脳波の原理と記録方法を説明できる。 ・正常の脳波波形を理解し、異常波形を認識できる。 ・筋電図の原理と記録方法を説明できる。 ・正常の筋電図波形を理解し、異常波形を認識できる。	60点	30点	10点
【ディプロマ・ポリシー3】				
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
・原則として、毎回の授業終了前に小テストを実施する。小テストの解説は次の授業中に行う。 ・実際の脳波データを供覧後、グループに分かれてディスカッションし、読み取れた所見を発表する。授業中に解説する。 ・期末試験を1回実施する。

○基本情報	
授業の目的	神経・筋機能検査および感覚機能検査を行う上に知っておくべき重要な内容の授業である。 まず、神経生理の基礎を学んだ上で、脳波検査の原理を理解し、記録方法および脳波計について理解する。 正常の脳波波形を理解し、異常波形を判別する。 筋電図検査の原理と記録方法を理解する。 正常の筋電図波形を理解し、異常波形を判別する。 平衡機能検査、眼底検査およびその他の聴覚検査、味覚・嗅覚などの感覚機能検査の原理と検査方法を理解する。
授業の概要	本科目では、神経・筋機能および感覚機能の検査法を学修する。脳波などの神経・筋機能検査では機器の構造と機能、測定原理や検査法などの基礎的事項や各種疾患の臨床的意義について学修する。平衡機能検査、眼底検査およびその他の聴覚検査、味覚、嗅覚などの感覚機能検査では、検査機器の構造と機能、測定原理や検査法などの基礎的事項や各種疾患の臨床的意義について学修する。また、それぞれの検査に必要な知識・技能・態度について学修する。 (オムニバス方式/全8回) (中川幹子/4回)脳波検査 (佐野成雄/4回)筋電図検査、感覚機能検査
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「オムニバス方式」 (3) アクティブ・ラーニング 「グループワーク」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	中川幹子(医師): 内科疾患の診療 佐野成雄(臨床検査技師): 脳波、誘発電位(聴性脳幹反応、視覚、体性感覚)、神経伝導、重心動揺検査の記録、判読

○その他
授業内容や学修方法に関する質問は、授業中や授業終了後に講義室で受け付ける。

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	臨床生理検査学2 (Clinical Physiology 2) 中川 幹子、佐野 成雄	授業コード	S009051
<b>学修内容</b>				
<b>1. 脳波検査1(中川)</b> 神経系検査の基礎、脳波検査の基礎、脳波計の原理				
予習	脳波検査の基礎、脳波計の原理、脳波検査の実際について予習する。教科書p77~97を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>2. 脳波検査2(中川)</b> 正常脳波、賦活法、アーチファクト、脳波検査の実際				
予習	正常脳波、賦活法、アーチファクト、脳波検査の実際について予習する。教科書p97~115を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>3. 脳波検査3(中川)</b> 異常脳波と関連する疾患 グループに分かれて、実際の脳波の判読練習を行い、所見を発表する。				
予習	異常脳波について予習する。教科書p115~126を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>4. 脳波検査4(中川)</b> 脳誘発電位の測定法と臨床的意義				
予習	脳誘発電位の測定法と臨床的意義について予習する。教科書p126~133を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>5. 筋電図検査1(佐野)</b> 正常筋電図と異常				
予習	正常筋電図と異常について予習する。教科書p134~146を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>6. 筋電図検査2(佐野)</b> 神経伝導検査法とその意義 グループに分かれて、実際の神経伝導検査波形の判読練習を行い、所見を発表する。				
予習	神経伝導検査法とその意義について予習する。教科書p146~168を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>7. 感覚機能検査1(佐野)</b> 平衡機能検査、眼底検査法とその意義				
予習	平衡機能検査、眼底検査について予習する。教科書p231~264を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間
<b>8. 感覚機能検査2(佐野)</b> 聴覚機能検査、味覚検査、嗅覚検査とその意義				
予習	聴覚機能検査、味覚検査、嗅覚検査について予習する。教科書p265~283を読んでおくこと。			約2時間
復習	講義内容をノートにまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	臨床生理検査学2 (Clinical Physiology 2) 中川 幹子、佐野 成雄	授業コード	S009051
<b>学修内容</b>				
<b>9. 期末試験</b> 学修した内容について筆記試験を実施する。				
予習				
復習				
<b>10.</b>				
予習				
復習				
<b>11.</b>				
予習				
復習				
<b>12.</b>				
予習				
復習				
<b>13.</b>				
予習				
復習				
<b>14.</b>				
予習				
復習				
<b>15.</b>				
予習				
復習				
<b>16.</b>				
予習				
復習				